

1. 背景

東北エコシステムズ(株)時代からの後遺症で愛車ロシナンテ号の燃料計の警告灯（燃料なし）がB D F 給油時に満タンでも、頻度多く点灯する。



又、先のサージングに似た現象の違和感が拭いきれない為、燃料タンクのレベルセンサー交換とタンク内部観察を行った。

2. 観察日時

2006年4月7日 15時～（レベルセンサー交換）

2006年4月11日 18時～（フィルター交換）

3. 観察風景

		
<p>ロシナンテ号後部座席下</p>	<p>燃料タンク上蓋</p>	<p>燃料タンク内部</p>
		
<p>レベルセンサーと フィルタ（右；新品）</p>	<p>フィルター底部側</p>	<p>新品との比較</p>

4. 観察結果

燃料タンク内部のフィルターは赤錆のような物が付着し、目詰まりの様子を見せていたため、暫定対策としてガソリンやアルコールで洗浄エアブローをし、後日、新品部品取り寄せ、交換となった。

タンク内の底部の褐色の模様は錆と思われ、マイナスドライバーで少し力を入れてこそげ落とすと、微細な粒子となり、タンク内部に拡散した。

5. 考察

先のサージングに似た現象は、低温時粘性の高いB D Fが目詰まりしたフィルターを通過できずに発生したと考える。錆の原因は調査中。今後のフィルターの錆の集積度に注目したい。